

手足口病に注意しましょう

手足口病は口の中や、手足などに水疱性の発疹がでる、ウイルスの感染によって起こる感染症です。子どもを中心に主に夏に流行しますが、**冬でも流行**はみられます。

飛沫感染、接触感染、糞口感染（便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染すること）によって感染します。特に、この病気にかかりやすい乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などでは注意が必要です。

水疱性の発疹

【症状は？】

口唇の内側、舌尖などに口内炎ができ、よだれが増え、手足やお尻を中心に水疱を伴う発疹が出現します。発熱はあっても1~2日で解熱し、発疹は1週間程度で消失します。乳幼児に多い夏かぜの代表ですが、年長児や成人も発症することがあります。有効なワクチンや、発病を予防できる薬はなく、症状に応じた治療になります。

手のひら、
足の裏、
お尻など



【合併症について】

まれに合併症（脳炎、髄膜炎、心筋炎など）が起こる場合があります。高熱、発熱が2日以上続く、嘔吐、頭痛、ぐったりしているなどの症状がみられた場合はすぐに医療機関を受診しましょう。

<感染予防のために>

- ◆ 石けんと流水を使った手洗いをしましょう。特に、食事前、トイレ後、排泄物の処理後は念入りに。
- ◆ タオルの共用は感染の元になるため、避けましょう。
- ◆ 回復後も便からウイルスは排出されます。おむつ交換をする時には、排泄物を適切に処理し、処理後はしっかりと手を洗いましょう。

香川県健康福祉部業務感染症対策課 TEL 087-832-3302

香川県感染症情報

<http://www.pref.kagawa.lg.jp/content/etc/subsite/kansenshoujouhou/index.shtml>